

現場の声  
Real Voice



70年以上前の火災ですが、実際に火災被害に遭った大家忠さんに当時を振り返っていただき、その時の状況や感じたことなどをお聞きしました。

高根村史にも残る大火災

昭和24年8月5日午後1時半頃、私がまだ4歳の頃の話です。母親の「火事だ」という声で雨戸を開けると近所の家から炎が上がり、火の粉が風で舞い、次々と樽萱(木の板)の屋根伝いに火が燃え移りました。母親は、周辺住民に声をかけ続け、動けない高齢者を助け、私と生後間もない妹を抱きしめて町内の神社へ避難しました。1時間も経たないうちに、火は収まりましたが、17戸の住宅は全焼。昨日まで楽しく過ごしていた家、食料や衣服も失い、当時は火災保険も無かったために、残ったものは何もありませんでした。親戚の家でお世話になったものの、戦後まもなく、食料なども十分に手に入らず苦労しました。

高根村史に残るほどの火災でしたが、死者や怪我人がなかったのは、気づきが早く、地域住民間での連携がとれていたからではないでしょうか。

幼いながらに、ここまで鮮明に覚えているのは、余りにも大きな火災だったため、恐ろしかったからに違いありません。この恐ろしさは、火災被害に遭った人にしか分かりません。しかし、被害にあつてからでは遅いです。日頃から、火にはくれぐれも用心いただき、火災予防に少しでも関心を持っていただけるとありがたいです。そして、地域の方々の助け合いを大切にしてください。



おお や ただし  
大家 忠 さん(高根町中洞)

昨日まであったものが、あっという間に無くなった

火災を発見したら、まずは声を出して周囲の人に火災を知らせ、119番通報してください  
実際に市内であった**火災事例と予防のポイント**

事例1

ガスコンロに油の入った鍋を乗せて加熱中、トイレや電話で、その場を離れた間に油が過熱し出火



火災予防のポイント

- 揚げ物調理など火を使用する際は、その場を離れない
- その場を離れる際は、必ず火を消す
- カセットコンロやキャンプ用ガスコンロなどを使用する際は、取扱説明書の注意事項をしっかりと読み、正しく使用する

万が一、出火したら

- 慌てずコンロの火を止め、鍋の蓋をして空気を遮断することで、消火することができます。蓋が無い場合は濡れたタオルを代用しても良いです。

令和3年度全国統一防火標語

「おうち時間 家族で点検 火の始末」

→火災を起こさないように日頃から家族で火の点検を行いましょう。



事例2

掃除をしていない、または、故障している石油ストーブを使用し出火



火災予防のポイント

- 使用前に点検・手入れをしましょう
- 燃え移るものがないようにストーブの周りは常に整理整頓
- 寝るときはストーブを消す
- 引火や爆発の恐れがあるので、ストーブの近くではスプレーなどを使用しない
- こぼれた灯油に着火する恐れがあるので、給油する際は、必ずストーブを消す

万が一、出火したら

- 消火器を使用してください。消火器が無い場合は、シーツなどの大きな布を濡らして、上から被せることで消火できます。